

苧(からむし)



奥会津博物館
伊南分館での
機織り実演



南会津町の奥会津博物館
伊南分館で展示されてい
る織物です。

会津地方は、越後の青そ、米沢の米沢織りとともに「苧(からむし)」という織物の大産地でした。とくに、南会津町の伊南や昭和村においては、約600年前から生産されていたと伝えられています。伊南の北側、昭和村では、今でも苧が生産されています。天正4年(1576)に伊南で苧が栽培された記録があります。慶長3年(1598)には、越後から会津に上杉景勝が移封となり、さらに生産を拡大します。上杉時代、久川城には清野長範がいました。江戸時代においては、全会津で苧は栽培され、製品は南会津の伊南で作られ、会津藩主の袴(かみしも)としても使用し、織物は大坂や京都まで運ばれています。

奥会津博物館伊南分館の西側には、河原田氏が天正17年(1589)に伊達政宗の進攻に備え、伊南古町の駒寄城から城を移した「久川城」があります。南会津中央部の城として江戸時代前半まで機能していました。

裏磐梯では、昭和20年代まで苧が栽培され、大麻の種を味噌に入れて「お種味噌」と称し、食べていました。 文責・写真 石田明夫



南会津の中央部に位置している久川城は、蒲生忠郷が大改修しています。県指定史跡